

# 新任院長補佐・部長・副部長紹介

## ■新任院長補佐



## ■新任部長



## ■新任副部長



# 行事予定

## 糖尿病イブニングセミナー

日時/令和6年5月28日(火)19:00～ ※ハイブリッド開催  
座長/福井赤十字病院 内科部長 夏井 耕之  
内容/「糖尿病を持つ人のQOL向上を考慮した治療戦略」  
演者/奈良県立医科大学 医師・患者関係学講座教授  
石井 均先生

# 開催報告

## 婦人科疾患イブニングセミナー

令和6年2月21日(水)に開催いたしました。座長を加藤内科・婦人科クリニック理事長 服部克成先生に務めていただき、辻部長より「骨盤臓器脱、骨盤底障害でお困りではないですか?」をテーマとしてハイブリッド形式で話題提供いたしました。当日は43名(会場:24名、オンライン:19名)の方にご参加いただき、「大変分りやすかった」「年齢的にはまだ大丈夫と思っていたが、リスク因子がいくつかあてはまるのでビックリした」などのご意見をいただきました。



## 肝がん地域連携セミナー

令和6年3月7日(木)に開催いたしました。座長を山崎副院長兼消化器センター長が務め、三重大学大学院医学系研究科 消化器内科学教授 中川勇人先生より「肝がん診療up date～脂肪性肝疾患の拾い上げから薬物療法まで～」について話題提供いただきました。ハイブリッド形式で開催し、当日は42名(会場:28名、オンライン:14名)の方にご参加いただき、講演会後には活発な質疑応答が行われました。

# 地域医療連携課 新メンバーのご紹介

令和6年4月よりメンバーが変更となりました。また、社会福祉士および介護支援専門員を増員し、人員体制を強化いたしました。今後とも、先生方のご意見・ご要望を真摯に伺いながら、地域医療連携の推進に努めてまいります。



- ①地域医療連携係長 伊澤 理恵(いざわりえ)
- ②介護支援専門員 山原 香里(やまはら かおり)
- ③社会福祉士(1月から) 與坂 恵(よさか めぐみ)
- ④社会福祉士(4月から) 豊島 千裕(とよしま ちひろ)
- ⑤主事 笠原 亜紀(かさらは あき)

# Partner

福井赤十字病院連携通信(パートナー)

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.082

令和6年4月発行



「新たな一歩へ 新幹線とともに」当院屋上より撮影/当院職員

## 逆紹介の推進について

桜の季節に先立って、2024年3月16日、北陸新幹線が福井県に延伸しました。病院の窓から雪を頂く両白山地を背景として新幹線が走っているのを眺めることができます。新年度、当院は新たに多くの職員を迎え、新たな気持ちで張り切って業務に励んでいます。

平素連携をお願いしている医療機関の先生方、施設のスタッフの皆様、お世話になっています。昨年4月(パートナーvol.80)、今年1月(パートナーvol.81)のご挨拶の際にもお願いをいたしました。再度のお願いです。

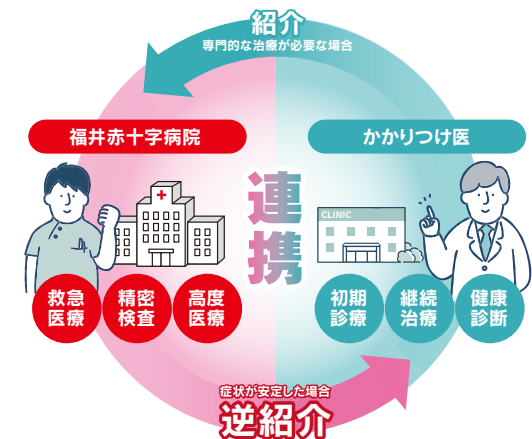
福井赤十字病院は、たとえばロボット支援手術、脳血管内の血栓除去術などに代表される、外科手術や先進的医療を中心にを行います。入院患者さん中心の医療を行います。緊急の患者さんにできる限り対応をいたします。診断に難渋する患者さんを受け持ちます。

これらを十分に実現するためには、比較的症状が安定し

た外来通院中の患者さんの数を減らす必要があります。病院にはかかりつけ医としての機能を果たすだけの十分な人材がおりません。地域のかかりつけの先生との連携を推進し、地域で医療が完結することを目指します。

2024年度、私たちは逆紹介を一層進めます。退院調整を一層迅速に行います。連携医療施設の先生方、スタッフの方々にはこれまでに増してのご協力をお願いいたしまして、新年度のご挨拶といたします。

院長 小松 和人



# 福井赤十字病院

## 理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

## 基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

## 地域医療連携課

受付時間/平日 8:00~18:30、土曜 8:30~13:30  
TEL 0776-36-4110(直通)  
FAX 0776-36-0240(専用)



<https://www.fukui-med.jrc.or.jp>  
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp  
連携通信第82号発行 令和6年4月 福井赤十字病院





# 自己管理ツールを用いた 心不全地域連携クリニカルパス

心不全患者は再入院を契機に身体機能が低下します。  
再入院予防のため、入院中に心不全ポイント自己管理ツールを導入し、  
受診するタイミングを明確にしました。

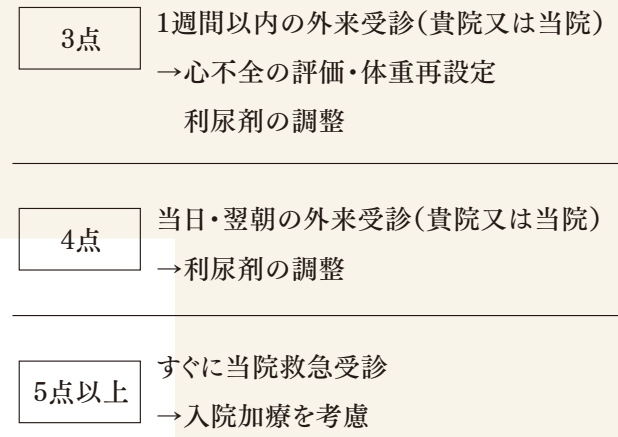


院長補佐(循環器内科部長)  
吉田 博之

出典:クロスバージョンラボ「ハートノート」

心不全の悪化を点数化(見える化)し  
早期発見するシステムです。

- ◎ 予定外体重…………… 3点
  - ◎ 脈拍120以上…………… 4点
  - ◎ 安静時息苦しさ…………… 5点
  - ◎ 自覚症状の悪化…………… 1点
- 合計点を計算します。



診療情報を標準化し病院とかかりつけ医がやり取りをするためには、心不全地域連携クリニカルパスが必要です。1枚目は当院からかかりつけ医への情報提供です。2枚目には連携するかかりつけ医に月単位の状況を記載していただき、患者さんが再び病院を受診する際に持参してもらいます。

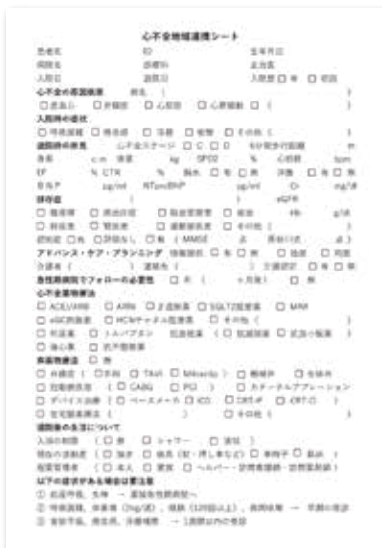
連携パスは自己管理ツールが記載できる在宅患者さんのみが対象ですが、連携パスの対象にならずに転医する患者さんにも退院時に福井県統一心不全地域連携シートを添付します。これは当院が中心となり福井県全体で統一して使用している連携ツールで、心不全について必要十分な患者情報が記載されています。また心不全ポイントは3点以上で受診を勧めるなど医師以外でも使用できます。



(1枚目)



(2枚目)



福井県統一心不全地域連携シート

# アルツハイマー病による 軽度認知障害(MCI)または 軽度認知症治療薬の 「レカネマブ」について

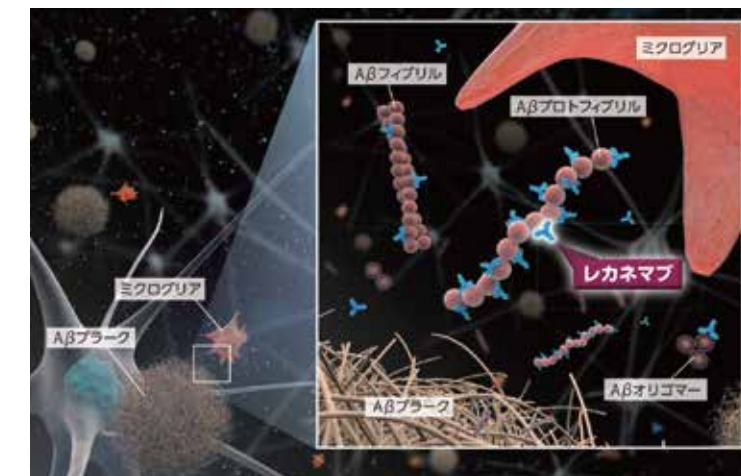


神経内科副部長  
早瀬 史子

厚生労働科学研究成果データベース「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」によると、2025年に認知症は700万人と推定され、その後も顕著に増加することが推定されています。アルツハイマー病は、脳内にアミロイドβと呼ばれる蛋白質が蓄積することによって、神経変性を引き起こし、物忘れや日常生活への障害などの症状が出る病気です。これまでの治療方針は、病気の進行をできるだけ遅らせる目的でコリン作動性神経系を賦活させる薬しかありませんでしたが、2023年9月25日に分子メカニズムに作用する「レカネマブ」が承認され、12月20日に発売になりました。「レカネマブ」はアミロイドβ凝集体に選択的に結合し、脳内のアミロイドβプラークを減少させることでアルツハイマー病の進行を抑制させ、認知機能と日常生活機能低下を遅らせる事を実証した治療薬です。2週間に1回点滴静注する製剤で、MMSE22点以上、CDR0.5か1の軽度認知障害(MCI)または軽度アルツハイマー病患者さんが対象です。残念ながら中等症以上の患者さんは適応にはなりません。中等症以上の認知症とは、具体的には金銭管理や衣類の選択に介助を要する程度です。その

他、厚生労働省が作成した『最適使用推進ガイドライン』が定める条件を満たすかどうかを、投与開始前にMRIやアミロイドPETまたは髄液検査で調べてから判断することになります。効果効能としては、症状を改善することは難しいのですが、脳内アミロイド蓄積減少と共に、18か月時点の臨床認知症尺度CDR-SB (Clinical Dementia Rating Sum of Boxes)の悪化をプラセボと比較して27%抑制しました(国際共同第3相試験)。(van Dyckら, N Engl J Med 2023; 388:9-21)

合併症としては、注入に伴う反応とアミロイド関連画像異常(ARIA)があり、投与開始後も定期的に頭部MRI検査を行い、副作用がないかを確認する必要があります。また、投与は2週間毎です。来院の手間が生じること、これまでの認知症の治療薬と比較してかなり高額な治療であることの説明が必要です。多くの方が高額療養費制度の上限になることが見込まれます。「レカネマブ」投与の希望がある患者さんは当科で検査・説明をいたしますので、どうぞご紹介ください。



レカネマブの臨床成績とその適正使用に関して  
Medical.eisai.jp より許可を得て引用



認知症治療薬のレカネマブは、アミロイドβのうち毒性が示唆されているAβプロトフィブリルに結合しアミロイドβプラークを減少させると考えられます。